

エコアクション21 環境経営レポート 2020

～本当の空と豊かな自然を次世代に～



東北江南株式会社

期間：令和元年5月～令和2年4月分



発行日 令和2年9月24日
改定日 令和2年10月20日
次回発行予定日 令和3年8月30日

目次

■環境経営方針……………	3
■会社概要……………	4
■認証・登録の対象組織・活動……………	5
■環境経営システム実施体制 ……	6
■中長期環境経営目標……………	7
■環境経営目標の実績……………	8
■環境経営計画の取り組み結果と その評価、次年度の取り組み内容…	9
■環境への主な取り組み……………	11
■環境関連法規等の取りまとめ 及び遵守状況のチェック結果……………	13
■代表者による全体の評価と見直し…	13

環境経営方針

【環境理念】

当社は、智恵子抄の故郷、安達太良山のふもとに位置し、恵まれた自然環境の中で、プラスチック、ゴム等の加工製品を製造販売する事業活動を行っています。

このかけがえのない自然との共生、調和を目指し、これからも「本当の空と豊かな自然を次世代に」継承するため、自主的、積極的、そして継続的に環境保全活動を推進します。

【行動指針】

エコアクション 21 に準拠し構築した環境経営システムに基づき、全員参加による環境管理を推進し、地球環境の改善に取り組みます。

(1)資源、エネルギー等の効率的な活用

製品ごとに最適な生産方法を策定し、それに基づく生産の効率化により、水資源や電気・化石燃料等の消費による環境への負荷、資源枯渇等を認識し、省資源、省エネルギーの推進を図ります。

(2)廃棄物発生量の抑制と再資源化の推進

廃棄物発生抑制や不要物の分別、再資源化を推進し、廃棄量の最小化と適正処理を進めることで、材料ロスを低減し低コストでの生産を目指します。

(3)化学物質等による環境汚染の未然防止

化学物質類の購入、使用、廃棄等にあたって、製品安全データシート SDS(MSDS)を活用し、適正管理・運用等による環境汚染の未然防止に努めます。

(4)環境関連法規等の遵守

事業活動に係る環境関連法規、条例、協定等、当社が受入を決めたその他の要求事項を遵守します。

(5)全員参加による地球環境保全の実践

すべての社員が環境問題の現状や環境経営方針の意義、組織の環境方針を理解し、自ら積極的に実践するための周知を行います。また、よき企業市民の一員として、社会や地域貢献活動に努めます。

2006年 5月 1日制定

2019年 5月 7日改定

東北江南株式会社
代表取締役

遠藤 敏晶

会社概要

(1) 事業所名及び代表者名

東北江南株式会社
代表取締役 遠藤敏晶

(2) 所在地

福島県二本松市小沢字柳原 72-4

(3) 設立

平成 4 年 5 月 25 日

(4) 事業内容

工業用ゴム・プラスチック製品の
製造及び販売

(5) 環境保全関係の責任者及び担当者

環境管理統括責任者 遠藤敏晶
環境管理責任者 遠藤隆雄

(5) 連絡先

TEL 0243-61-3491 担当：環境管理責任者 遠藤隆雄

FAX 0243-53-2770

URL <http://www.t-kounan.co.jp>

MAIL info@t-kounan.co.jp

(6) 事業規模

資本金 1000 万円

従業員数 234 名 (男 153 人・女 81 人) (2020 年 8 月)

床面積
本社工場 841 m² / 第四工場 1058 m²
第二工場 1058 m² / 第五工場 1273 m²
第三工場 (クリーンルーム/食堂) 351 m²
第六工場 851 m²
第七工場 859 m²

売上高 32 億 5911 万円

生産高 388.5t

認証・登録の対象組織・活動

当社の全組織・全活動（彦根出張所を除く）を対象とします。

登録組織名： 東北江南株式会社 本社

対象外： 彦根出張所（理由：所長の自宅を使用していて、主に業務内容が電話連絡であることにより環境負荷が無いため）

活動： 工業用ゴム・プラスチック製品の製造及び販売

エコアクション21・認証登録の状況：

認証番号 0001192

認証・登録日 2006年12月13日

更新・登録日 2018年12月13日

・その他認証

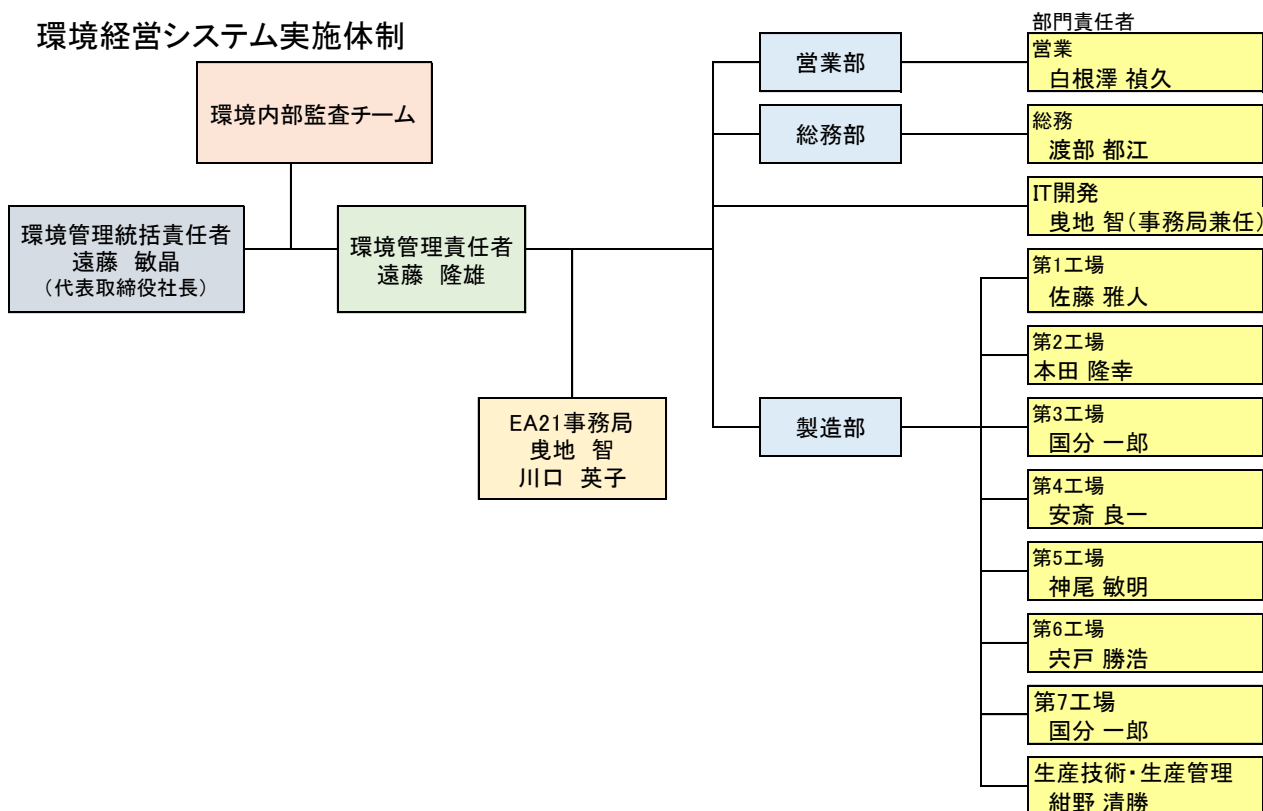
ISO9001

認証番号：02725-2015-AQ-KOB-JAB

認証・登録日：2015年6月26日

更新・登録日：2018年6月26日

環境経営システム実施体制



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境に関する内部監査の計画 訓練の企画・実施
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 環境経営活動の実績集計 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) 訓練記録の作成
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 環境に関する内部監査の実施・報告
環境内部監査チーム	<ul style="list-style-type: none"> EA21の環境活動への取組が適正に行われているかの確認 監査計画の立案と監査結果の報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

中長期環境経営目標

※目標は2017年度を基準に「売上原単位比*2」でどれだけ減らすかで表しています				年度目標				
No.	環境目標		単位	2017年実績 (基準年)	2018年目標 (1%削減)	2019年目標 (2%削減)	2020年目標 (3%削減)	
1	二酸化炭素排出量の削減	* CO2排出量の削減	kg-CO2	(1,307,503)	(1,382,400)	(1,466,800)	(1,240,800)	
			原単位 (kg-CO2/万円)	3.88	対基準年原単位 3.84 (▲1%減)	対基準年原単位 3.80 (▲2%減)	対基準年原単位 3.76 (▲3%減)	
		内訳	購入電力	kg-CO2	(1,150,764)	(1,219,190)	(1,294,551)	(1,094,082)
				原単位 (kg-CO2/万円)	3.42	対基準年原単位 3.39 (▲1%減)	対基準年原単位 3.35 (▲2%減)	対基準年原単位 3.32 (▲3%減)
		化石燃料	kg-CO2	(156,739)	(165,852)	(176,055)	(148,962)	
			原単位 (kg-CO2/百万円)	46.54	対基準年原単位 46.07 (▲1%減)	対基準年原単位 45.61 (▲2%減)	対基準年原単位 45.14 (▲3%減)	
		電力消費量	kWh	(2,099,934)	(2,224,800)	(2,362,320)	(1,996,500)	
			原単位 (kg-CO2/万円)	6.24	対基準年原単位 6.18 (▲1%減)	対基準年原単位 6.12 (▲2%減)	対基準年原単位 6.05 (▲3%減)	
		燃料消費量	灯油	ℓ	4,412.4	/	/	/
			LPG	m3	399.8			
ガソリン	ℓ		59,844.2					
軽油	ℓ		1,676.9					
2	廃棄物排出量の削減	紙の使用量	kg	(4,002)	(4,248)	(4,516)	(3,795)	
			原単位 (kg/百万円)	1.19	対基準年原単位 1.18 (▲1%減)	対基準年原単位 1.17 (▲2%減)	対基準年原単位 1.15 (▲3%減)	
		廃棄物排出量 (廃プラ、廃油等)	kg	(219,415)	(232,200)	(246,461)	(208,560)	
			原単位 (kg/百万円)	65.15	対基準年原単位 64.50 (▲1%減)	対基準年原単位 63.85 (▲2%減)	対基準年原単位 63.20 (▲3%減)	
3	水道使用量の削減	上水使用量	m3	(2,924)	(3,092)	(3,285)	(2,779)	
			原単位 (m3/千万円)	8.68	対基準年原単位 8.59 (▲1%減)	対基準年原単位 8.51 (▲2%減)	対基準年原単位 8.42 (▲3%減)	
4	化学物質使用量の管理	有害化学物質の使用量・保管量・使用方法を把握する		—	有害物質の使用量・保管量・使用方法の把握			
5	グリーン購入の推進	グリーン購入法適合の物を優先して購入する	点/年	—	8点	8点	8点	
6	製品への環境配慮	加工残材(端材)の製品への活用	* %	—	100%以上	100%以上	100%以上	
7	地域貢献活動の推進	工場内緑化及び美化活動の推進		—	工場内緑化及び美化活動の推進			

◇No.4～7は基準年度の設定は行っていません。

*1 電力のCO2排出係数は、東北電力の2016年度の調整後排出係数0.548kg-CO2/kWhを使用しています。

*2 原単位は、実績÷売上額で算出しています。

*3 加工残材の製品への活用は在庫数/入出庫数で計算しています。

*4 2018年目標の化石燃料、上水使用量の目標値を訂正(2018/10/30)

*5 2017年度実績 紙の使用量見直しに伴い2018年、2019年、2020年目標数値訂正(2019/04/30)

*6 2018年目標の化石燃料、上水使用量の目標値を訂正(2019/04/30)。

*7 売上目標変更の為、2019年目標の()内目標値を訂正(2019/04/30)。

環境経営目標の実績 (期間：令和元年5月～令和2年4月)

No.	環境目標		単位	2017年 実績 (基準年)	2019年				
					目標 (2%削減)	実績	評価	コメント	
1	二酸化炭素排出量の削減	CO2排出量の削減	kg-CO2	(1,307,503)	(1,466,800)	(1,573,111)	×	内訳ごとには差があるものの、総合的には大幅な増加となった。設備に大きな変更があり削減の基準が乱れたことも理由と考えられる。	
			原単位 (kg-CO2/万円)	3.88	対基準年原単位 3.80 (▲2%減)	対基準年原単位 4.83 (24.48%増)			
		内訳	購入電力	kg-CO2	(1,150,764)	(1,294,551)	(1,439,482)	×	第7工場の建設や導入した機械のイニシャライズに伴い電力消費が増加し、更にコロナ禍の影響で生産効率が低下した事によるものと思われる。
				原単位 (kg-CO2/万円)	3.42	対基準年原単位 3.35 (▲2%減)	対基準年原単位 4.42 (29.24%増)		
		化石燃料	kg-CO2	(156,739)	(176,055)	(133,629)	○	エコカーへの置き換えやエコドライブの効果が出ている。	
			原単位 (kg-CO2/百万円)	46.54	対基準年原単位 45.61 (▲2%減)	対基準年原単位 41.00 (▲11.90%減)			
		電力消費量	kWh	(2,099,934)	(2,362,320)	(2,626,792)	×	夜シフトの生産量が減少し、売り上げに対する電力効率が下がったことも要因ではないか。	
			原単位 (kg-CO2/万円)	6.24	対基準年原単位 6.12 (▲2%減)	対基準年原単位 8.06 (29.17%増)			
		燃料消費量	灯油	ℓ	4,412.4	/	1,601.0	-	
			LPG	m3	399.8		362.5		
ガソリン	ℓ		59,844.2	51,476.0					
軽油	ℓ		1,676.9	3,049.6					
2	廃棄物排出量の削減	紙の使用量	kg	(4,002)	(4,516)	(5,072)	×	売り上げの減少と生産効率の低下による影響が大きい。	
			原単位 (kg/百万円)	1.19	対基準年原単位 1.17 (▲2%減)	対基準年原単位 1.56 (31.09%増)			
		廃棄物排出量 (廃プラ、廃油等)	kg	(219,415)	(246,461)	(283,800)	×		
			原単位 (kg/百万円)	65.15	対基準年原単位 63.85 (▲2%減)	対基準年原単位 87.08 (33.66%増)			
3	水道使用量の削減	上水使用量	m3	(2,924)	(3,285)	(3,315)	×	第7工場建設の際の水使用に要するものが大きかった。	
			原単位 (m3/千万円)	8.68	対基準年原単位 8.51 (▲2%減)	対基準年原単位 10.17 (17.17%増)			
4	化学物質使用量の管理	有害化学物質の使用量・保管量・使用方法を把握する	—	—	有害物質の使用量・保管量・使用方法の把握	有害物質の使用量・保管量・使用方法を適正に管理	○	SDSの管理・定量保管を的確に行っている。	
5	グリーン購入の推進	グリーン購入法適合の物を優先して購入する	点/年	—	8点	9点	○	業務に支障のない形で置換	
6	製品への環境配慮	加工残材(端材)の製品への活用	%	—	100%以上	133%	○	歩留まりを高めて再利用している。これらを更に進めて産廃の量を減らしていきたい。	
7	社会貢献活動の推進	工場内緑化及び美化活動の推進	—	—	工場内緑化及び美化活動の推進	工場法面の芝張りなど緑化活動や清掃を行った	○	芝の法面を増やすことで敷地の緑化や清掃が一掃しやすくなった。	

*1 電力のCO2排出係数は、東北電力の2016年度の調整後排出係数0.548kg-CO2/kWhを使用しています。

*2 原単位は、実績÷売上額で算出しています。

*3 評価欄：○は達成、×は未達

*4 製品への環境配慮は残材の使用数÷入庫数で比率を出して目標としています。

*5 製品への環境配慮は残材の使用数÷入庫数で比率を出して目標として

環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容（1 / 2）

No.	項目	目標	実施方法	評価	次年度の 取組内容	次年度の 取組内容
1	CO2排出量の削減	化石燃料使用量の削減	車両整備	○	継続して実施	同車種で燃費が違う場合どのような条件があるのか検証する
			始業点検、定期自主点検の励行	○	継続して実施	
			エコドライブの徹底（急発進、急停車しない等）	○	継続して実施	
			「燃費ノート」への記録	○	継続して実施	
			法定速度の遵守	○	継続して実施	
			毎月毎の化石燃料使用量の確認と状況報告	○	継続して実施	
		電力消費量の削減	昼休みの消灯励行	○	継続して実施	機械の消費電力を抑えるために、効率の良い生産計画や不良対策を行う
			パソコンの省電力化（帰宅の際や離席が長い場合、PC電源OFF）	○	継続して実施	
			LED電球への置き換え	○	継続して実施	
			エアコン温度の管理（冷房26℃、暖房21℃）	○	継続して実施	
	サーキュレーター等の利用による空調効果の向上		○	継続して実施		
	ブラインド、遮光フィルム等の導入による空調負荷低減		○	継続して実施		
	定期的にエアコンフィルターの清掃		○	継続して実施		
	CO2排出量と電力使用量の確認と状況報告	太陽光発電を利用	○	継続して実施		
		機械のアイドルリングを短縮、昼休みは機械の停止の運用	○	継続して実施		
		クールビズ、ウォームビズの推奨 ・寒さ対策の為、インナーを配る（2月～4月）	○	継続して実施		
		毎月毎のCO2排出量と電力使用量の確認と状況報告	○	継続して実施		
2	廃棄物排出量の削減	紙使用量の削減	古紙回収の推進（コピー用紙回収箱、ダンボール回収置場の設置）	○	継続して実施	注文・見積などの依頼書をパソコンなど端末から行うことで省ペーパーを進める
			裏紙使用の徹底（裏紙置場の設置）	○	継続して実施	
			商品購入時のダンボールの再利用（荷送り箱へ利用）	○	継続して実施	
			両面印刷、2つ割り印刷を活用	○	継続して実施	
			メールでのデータ配信	○	継続して実施	
			文書の電子化	○	段階的に実施	
			使用済封筒の再利用	○	継続して実施	
	産業廃棄物の削減	マスキングの回収箱の設置	○	継続して実施	社員間で残材を使用する意識を確認しあうように教育する	
		木製パレットの持ち帰り推進	○	継続して実施		
		残材管理システムの構築（残材の再利用）	○	継続して実施		
		分別の徹底（置場整頓、分別名表示）	○	継続して実施		
		毎月毎の廃棄物排出量の確認と状況報告	○	継続して実施		
3	水道使用量の削減	水道使用量の削減	雨水利用の推進（雨水の貯水装置で運用）	○	継続して実施	加工機械に用いる工業用水の再利用を進める。又、雨水の利用が可能な部分は活用する。
			日常の節水徹底	○	継続して実施	
			節水啓発POPの掲示	○	継続して実施	
			トイレ用擬音装置の設置	○	継続して実施	
			毎月毎の水使用量の確認と状況報告	○	継続して実施	
4	化学物質使用量の管理	有害化学物質の使用量・保管量・使用方法を把握	新規購入量の把握	○	継続して実施	各工場ごとに管理者を置き、入数を管理させる
			最新版管理（SDS入手と情報伝達）	○	継続して実施	
			保管場所の周知、管理の徹底	○	継続して実施	
5	グリーン購入の推進	グリーン購入適合のものを優先して購入	コピー用紙はグリーン購入適合商品を購入	○	継続して実施	注文時に置換可能か確認してからの購入を励行する
			LED電球への置き換え	○	継続して実施	
			ハイブリッド車の購入	○	継続して実施	
			事務用品・生活用品のグリーン購入適合商品置換の検討・推進	○	継続して実施	
6	製品への環境配慮	加工残材（端材）の製品への活用	残材の棚番への登録（再利用の為）	○	継続して実施	DBを利用できる人を増やす
			残材データベースの管理	○	継続して実施	
7	社会貢献活動の推進	工場内緑化及び美化活動などの推進	工場内緑化活動の推進	○	継続して実施	定期的・習慣的に 行う
			工場周辺の清掃活動	○	継続して実施	

環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容（2/2）

改善取組事項	結果	評価及び次年度の取り組み内容
二酸化炭素総排出量の削減	未達	新規機械の導入や第7工場の建設もあり全体では目標を達成できなかった。排出量などに改善の余地があるのでより効率的な生産活動を進めて省エネにつなげていく必要がある。
1 1-1 電力使用量の削減	未達	新規加工機械の立上げに時間がかかった結果、売り上げに直結しない電力使用量が多くなったことや、夏の暑さで電力消費が多くなるといった要因が売上毎の削減量に影響した。今後はスケジュール調整などで省電力を進めたい。
1-2 燃料消費量の削減	達成	ハイブリッド車や電気空調への転換により化石燃料の消費が減少した。エコドライブの再確認などでより効率の良いエネルギー削減に努めたい。
2 紙の使用量	未達	過去の書類や不良再作の際の段ボールなどを処分した際の使用量が増えた事などが原因と思われる。今後は請求書・納品書などの電子化なども取引先と進めていきたい。
廃棄物排出量の削減	未達	不良や歩留まりの悪い製品、在庫品の処分によって削減量が改善されない状況が続いている。引き続き不良対策や生産スケジュールの改善で無駄な産廃を少なくしていく。
3 水道使用量の削減	未達	第7工場建築や、新規加工機械の導入で水の使用量が増えたことが原因と考えられる。適正な水の使用や作業時以外の節水意識を環境教育を行って高めていきたい。
4 化学物質使用量の管理	達成	化学物質の管理はその出入りや保管量を把握し、適正な方法で管理している。また、SDS等を取得し使用方法を常に確認している。
5 グリーン購入の推進	達成	企業活動に影響無い形でのエコカーへの転換やグリーン購入法に適合する備品への変更を今後も進めていく。
6 製品への環境配慮	達成	新品の材料を使用する前に残材の材料在庫を確認し、必要な寸法分が残っていないか等を確認させることを社員教育などで徹底させるようにする。
7 社会貢献活動の推進	達成	会社構内の緑化活動・社外の美化清掃活動を全社で行い、より管理しやすい環境づくりに努めている。

環境への主な取り組み（1 / 2）

◎CO2排出量の削減

- 昼休みの間の消灯や工作機械の電源を切るなどして消費電力を抑えている。
- クールビズ・ウォームビズの推奨活動として空調の設定温度を冷房は26度以上、暖房は21度以下と定めて掲示を行い周知している。（写真左下）また、営業部門では夏季はノーネクタイでの営業を行い、製造部門では冬季にインナーを作業員全員に配布している。
- 2012年に操業開始した第5工場の屋根に太陽光発電装置(出力10kw)を設置し、購入電力を減らしてCO2削減を行っている。（写真右下） また、2017年に操業開始した第6工場の屋根にも同じものが設置されている。



◎水道使用量の削減

- 全社的な節水活動を行っている。具体的には流しやトイレにポップを貼るなどの啓発活動や、製品を手洗い洗浄する時にまとめ洗いするための水をためる容器を購入し使用してもらっている。

◎エコドライブの推進

- 社用車の燃費効率をよくするためにエコドライブの推進を行っている。具体的な取り組みとしては燃費ノートを作成し、給油量と走行距離を記入し月毎の燃費効率を計算し営業内でそれらを共有し、同車種との比較を行ってより良い燃費効率を目指している。

環境への主な取り組み（2 / 2）

◎廃棄物排出量の削減

・材料を加工後にでた残材のうち、再利用不可の物に関しては材料ごとに分別を徹底させた上でリサイクルすることにより、産業廃棄物の削減及び再資源化を図っている。切子等の産業廃棄物保管場所の他にリサイクル前のプラスチック置場を新たに設け、リサイクル材の管理を行っている。（写真左）

・プラスチック以外では古紙（使用済みコピー用紙や段ボール、新聞等）を古紙回収業者に依頼してリサイクルしたり、プラスチックの板材に貼ってあったマスキング紙やマスキングシートを梱包材などに再利用するなどしている。

・残材管理システムを構築し、効率的な残材利用を行っている。残材にナンバーを割り振ってパソコンに登録することで必要な材料を残材からパソコンを使って検索を行い、効率的に探し出せるようになった。（写真右）



種類	No.	幅	長さ	種類	No.	幅	長さ
J4	1011	120	300	J4	1065	130	400
J4	1012	120	300	J1	889	230	230
J4	1010	160	240	J1	1078	90	670
J4	18	140	290	J1	1070	180	355
J4	978	80	558	J3	335	250	260
J4	977	130	350	J3	336	250	260
J1	1126	175	275	J3	337	250	260
J4	952	150	330	J3	338	250	260
J1	1137	200	255	J3	339	250	260

◎グリーン購入の推進

・コピー用紙や日用品、ハイブリッド車やLED電球など、グリーン購入適合品への置き換えを推進している。状況によってはグリーン購入品が状況に適當ではないため、（例：ハイブリッド車の容量不足、LED電球の照度不足など）代替可能な物に関してのみ置き換えを進めるとともに、一方でそれ以外のものに関して置き換えを進めるためにどのような対応が必要かの検証も同時におこなっている。

◎エコキャンペーンへの参加

福島県で毎年行われているエコキャンペーン「みんなでエコチャレンジ」に会社ぐるみで参加し、環境への意識を高めている。10種のエコ活動の実践や昨年と今年の電気使用量の比較などで、環境活動への具体的な取り組みを知ってもらい、社内での活動に繋げている。

環境関連法規等の遵守状況のチェック結果、 及び違反・訴訟の有無

・ 当社に適用される環境関連法規等の遵守状況をチェックした結果、問題はありませんでした。また、これらの法規制等に関して、関係当局からの違反、指摘及び地域住民からの苦情や訴訟などありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し

【実施日】 令和2年9月18日

- ・ 今期の前半には新工場や新型機械の立ち上げや夏季の猛暑、後半ではコロナ禍によって生産スケジュールが安定しないことでエネルギー効率が落ち、いくつかの項目で目標を達成できなかった。
- ・ 中期環境経営目標の基準となる2017年と比べて工場や設備などの増加・変更が著しく、最終年（3年目）となる来年を現行のままで行うべきかも含めた検討が必要になってくるかも知れない。
- ・ 前期同様、不良や生産スケジュールの乱れ、歩留まり等がコストと同時に環境保護につながっているといった、通常の作業を通じてエコを実践することを社員に周知していく、そのための教育も改めて行う事で、より一層環境に配慮した企業を目指していきたい。